東方異世界大戦

東方サイコー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
東方異世界大戦

【Ｎコード】
Ｎ８９８５Ｘ

【作者名】
東方サイコー

【あらすじ】
前作である「東方怪奇談」の続編です。
ここに幻想郷＆過去の日本軍＆作者オリジナル軍ＶＳ謎の元寇国との壮絶な大戦が開戦する。果して勝つのはどちらか！！

幻想郷に海が！！Ｆ４Ｆ出現！！（前書き）

続編ここに爆誕です。
誤字などありましたらご指導ください。
これからもお願いします。

幻想郷に海が！！Ｆ４Ｆ出現！！

・・・博霊神社・・・

いつもとなんら変わりのないここ博霊神社に幻想郷最大の異変が伝えられようとしていた。

「れ、れ、霊夢～！！大変だ～！！」

そう叫びながら箒に乗って高速で飛んできたのは、霊夢とよく行動を共にする霧雨魔理沙である。

「なんなの？騒がしいわね。」

霊夢は、あまり興味がないという風にお茶を啜りながら聞いてみた。すると、魔理沙は慌てながら普通幻想郷では、ありえないことを言ってきた。

「呑気にお茶なんか啜ってる場合じゃないぜ！最東端に海が現れたんだよ！！」

ブフォ～

霊夢は、お茶を噴いてしまった。

「ケホ、ケホ、魔理沙何言ってんのよ。幻想郷に海なんてそんな・・・。」

とは、言ったものの霊夢には引っかかる点があった。そう、ここ最近の外から人が時代関係なく、また、たま（本当にまれ）に異世界からも人が来るようになってしまったのだ。（のちに外来異変と命名）それによって海までもこちらにはいって来てしまったのでは、ないかと。

「（・・・考えすぎね・・・）」

「じゃぁ、見に行きましょう？」

「よし！さすが霊夢だぜ！」

・・・少女移動中・・・

「まさか・・・。嘘でしょ・・・。」
そう。霊夢には、とても信じられないものが目の前に広がっている。それこそまさしく海であった。
「な？私の言うとうりだっただろ？」
魔理沙はなぜか自慢げに言った。
その後、幻想郷中の妖怪が海を見ようと集まりだした。中には、人間の姿もある。
「結構集まってきたわね。（人間いるけど大丈夫かしら？）」
紫も隙間から出てきた。
「あらあら、まさかこの幻想郷に海が現れるなんて・・・。」
紫も驚いているようだ。
「ん？なんだ、紫の仕業じゃないのか？」
魔理沙は、紫の仕業だと思っていたらしい。
「私が何でこんなことしないといけないのかしら？」
「う～ん。確かに理由がないよな・・・。」
「そうでしょう？そｒ「あやややや。誰か助けて～！！」・・・。」
紫の話の途中に誰かの助けを求める声が聞こえてきた。
「この声は・・・もしかして、文！！」
そう。文々。新聞でおなじみの射命丸文である。
すると、文が高速で飛んできた。
「どうしたの文？」
霊夢が聞いてみた。
「あやややや。実は、空飛ぶ変なものが追いかけて攻撃してくるんです！」
「「「「「へ？」」」」」
その場にいた全員が一斉に言った後それは、やってきた。
ゴーン！！
大きな音を立てやってきたのは、独特の航空機である。

「まさか・・・！？あれは・・・」
優末は、知っているようだ。
「優末知っているのか？」
佑也が優末に尋ねた。
「あれは、第二次世界大戦中にアメリカ軍が使っていたＦ４Ｆワイルドキャット！！」
そう。アメリカ航空隊が使用していた戦闘機である。
Ｆ４Ｆは、霊夢たちへ機銃掃射し始めた。
「これであそこの奴らを殺れば二階級特進も夢じゃねーぜ！！」
コックピット内のパイロットは、そんなことを叫びながら打ちつずけた。運よく弾丸はすべて外れた。そして、
「いきなり撃ってくるとは・・・恥を知れ！！」
優末は、キレて大量の対空高射砲を出現させ対空迎撃を行った。
一発がＦ４Ｆに直撃し大破して落ちて行った。
こうして、Ｆ４Ｆとの戦いは優末の活躍により終わった。

幻想郷に海が！！Ｆ４Ｆ出現！！（後書き）

次回は、ついに幻想郷が動き出します。

国を設立！！（前書き）

はい。無理やり話を進めることが多くなると思います。

国を設立！！

前回いきなり襲撃してきた（文を追ってきたついでに手柄を立てようとして）Ｆ４Ｆを大量に持つ国があると文から情報を聞き出した紫たちは、焦った。なぜなら、あの時は運よく銃弾が当たらなかったからいいものの、後で確認したら地面に穴が開いていたのである。あんなものが何十機いや何百機できたらいくら妖怪でも対処ができなくなると思ったからである。そして、今紫の家にて会議が行われていた。

「ん～と・・・とりあえずどうする？」

紫がとりあえず聞いてみた。すると、

「文殿。確かに敵は、国を築いていたのですか？」

いきなり隙間によって召集された佑司元伍長は、文に聞いてみた。

「はい。確かにその周辺一帯が一つであるかのように集団で生活していました。」

「そうですか。」

佑司伍長は思った。

「（このままだと侵略される！）」

と。

こちらは、人里というものはあるが、国というものがない。第一国を作ったとしても妖怪が人間やほかの妖怪と協力し合うかも微妙である。しかし、建国を求めるものがいた。

「ここは、国をつくらなければ我に勝利はまずないでしょう。」

そう言ったのは、なんとあの山本五十六長官である。先日、一式陸攻で人間の里付近に着陸したのを紫たちが救助したのである。

「そう。そうね！このまま何もせずに変な奴らの侵略を受けるよりましね。そうしましょう。」

その後、一部から批判の声が上がったもののすぐに落ち着き人間どころか妖怪までも賛同したのである。国名を決める国民投票を取

ったら次のような国名が上がった。

・「幻想帝国」
・「東方国」
・「東方共和国」
・「幻想共和国」

である。ちなみに結果は、「幻想帝国」は違う人の小説とかぶるからということで却下。「東方国」は、普通すぎるという紫の意見で却下。「東方共和国」は、一部の妖怪から批判があり却下。残った「幻想共和国」が国名に決まった。

続いて軍は、「幻想共和国防軍」と決まった。兵員数は、陸軍１０００人、空軍５０人、海軍０人というどこからどう見ても分かる弱小軍である。また、装備や兵器は

陸軍
・装備

三八式歩兵銃（銃剣付き）　ナイフ　十四年式拳銃

・兵器

一式戦車×３　一式陸攻×３

空軍
・装備

十四年式拳銃　ナイフ

・兵器

一式戦闘機「隼」×２　零式艦上戦闘機二二型×１５

である。また海軍は、兵器も武装もないためこれからどうにかしていくことになった。

また、紫を総理大臣に決めた。理由は、妖怪の一部から人気があり指揮が高まると予想されたからである。

こうして、幻想共和国の建国は、スムーズに終わったのである。

・・・幻想郷最南にある元寇国・・・

「そうか・・・。ついに国を作ってきたか。」

男は、そう呟いた。

「はい。ハン閣下。」

軍人らしき服に身を包んだ男は、そう告げた。

「うむ。報告ご苦労であった。下がってよいぞ。」

「ハ！」

ハンにそういわれ出口へその男は、去って行った。

「だが、敵は小国にすぎん。まだ問題なかろう。」

ハンと呼ばれた男は、その口元に笑みを浮かばせ続けていた。

国を設立！！（後書き）

どうでしたでしょうか？建国が無理やりですねｗｗｗ
次回からついに作者オリジナル軍が出る予定でいます。
では～。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8985x/

東方異世界大戦

2011年10月24日23時03分発行